

# シラス：圧力の中での励まし

シラスはどのような人で、パウロとどう働きましたか。

シラスはエルサレムの指導者であり預言者で、会議の知らせをアンティオキアへ携え、後にパウロと旅をしました。通常、パウロ書簡の冒頭に名があるシルワノと同一人物とされますが、使徒言行録は二つの名の関係を明示していません。

## エルサレムからの信頼される声

使徒言行録は、エルサレムからの手紙をアンティオキアへ届けるため選ばれた人々の中にシラスを挙げます。彼とユダ・バルサバは預言者として多くの言葉で信徒を励まします。本人たちが赴くことで、異邦人の受け入れについて共同体が下した決定を伝えます。知らせは文書だけでは完結しません。信頼できる人々が説明し、力づけ、共同体が具体的な意味を受け止めるのを助けます。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 15章22～35節

出典: acts

## 苦しみを共にする

バルナバと別れた後、パウロはシラスを選びます。フィリピで二人は打たれ、投獄されます。使徒言行録は祈りと賛美、地震、看守の危機、家の人々の応答を描きます。また、二人のローマ市民権と、公に扱いを正すよう求めたことも記します。キリストへの信仰は、公権力による不当な扱いを容認するふりや、苦しみを本人の失敗のしるしと見なすことを求めません。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 15章40～41節・使徒言行録 16章19～40節

出典: acts

## 書簡を支える人々のつながり

テサロニケの信徒への手紙一とテサロニケの信徒への手紙二は、パウロとテモテと共にシルワノの名を記し、コリントの信徒への手紙二は三人の共同の宣教を振り返ります。これは宣教を、孤独な英雄の事業ではなく共同の働きとして読む助けになります。シラスとの同一視は一般的ですが、責任ある紹介では、その推定と本人を明記した箇所を区別します。励まし、旅、忍耐強く寄り添うこと自体が大切な奉仕です。

聖書の参照箇所: テサロニケの信徒への手紙一 1章1節・テサロニケの信徒への手紙二 1章1節・コリントの信徒への手紙二 1章19節  
出典: letters

## 出典

- [acts] Acts 7–28; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/ACT.htm>
- [letters] Romans through Philemon; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/>

---

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters · CC BY 4.0 · <https://paulineletters.com/ja/explore/resources/silas>